



来たれインターカレッジ・ バイオリダーズへ

松本 正

はじめに

昨年、本誌（第86巻、11号）にノバルティスバイオキャンプの記事を掲載いただいた際に、大学の枠を越え、留学生も交えた「夏季インターカレッジ・バイオ・スクール」のようなものの設けが望まれると書かせていただいた。そして今回はその夢が実現して、ここにインターカレッジ・バイオリダーズ2009へのお誘いを紹介できることはなんとも不思議なことであろうか。

ノバルティスバイオキャンプ2007とノバルティスバイオキャンプ2008の2回のワークショップを通して、チーム別でのベンチャー起業化演習が若い研究者のリーダーシップ発揮に高い教育効果があることが確信でき、経済産業省の産学連携人材育成パートナーシップ事業にバイオインダストリー協会を中心に応募し、第1回インターカレッジ・バイオリダーズを本年1月に開催することができた。

第1回インターカレッジ・バイオリダーズ

第1回インターカレッジ・バイオリダーズは東京晴海の晴海グランドホテルにおいて、本年1月26日から28日までの2泊3日の日程で開催された。参加者は北海道から熊本まで全国各地から30名が参加し、1チーム5名で計6チームが、架空のテーマである「すい臓がんの特異的な糖鎖マーカー」を事業化の中心にすえて、どのような会社を立ち上げることができるかという起業化演習に取り組んだ。

今回は、参加対象者をバイオ系の大学院生なら誰でも可とした。同時に、各チームの議論が現実から大きく乖離しないように、各チームに一人、参加した大学院生と同世代の企業研究者に参加してもらった。

初日は経済産業省の倉田課長による開校の挨拶に続き、「会社設立の基本知識」の講義を、あずさ監査法人の坂井氏にお願いし、その後でチーム別作業が開始された。また、午後にはアンジェスMGの山田社長によるケース報告で、山田社長がベンチャーの経営を通して感じ取った革新的な医薬品開発の醍醐味が紹介された。さらに夕方には、トップレクチャーとして、アステラス製薬の竹中会長の研究者時代から経営者時代を通して、ご自身の道を切り開いてこられた経験が熱く語られた。

その後に開催された学生と講師陣との交流会では午後一番に講演された山田社長もわざわざかけつけ、竹中会長と共に、普段なかなか接する機会の少ない経営トップと参加者との温かい歓談に花が咲いた。

第二日目はバイオリダーズのチーム別作業の山場であり、午前中に持田製薬の石川部長による知的財産の基礎に関して講義を受けて、その後で、今回のテーマであるバイオマーカーの現状を話題提供として、塩野義製薬の浅田主席研究員にお話いただき各チームの事業計画策定の参考にしてもらった。

午後には、前日からの作業の中間報告として、会社名や役職の分担、事業の大まかの方向性をチームごとに紹介してもらい、講師陣からのコメントとアドバイスを受けて最終発表に向けて細部の検討が開始された。

このあたりまでくると参加者の表情に変化が現れてきた。皆真剣である。社長役のリーダーを中心として、自分たちが立ち上げる製品のマーケット調査や糖鎖関連の特許検索と事業計画書の根幹となる部分を手分けして仕上げていく。また、製品を世の中に出すまでの開発期間や経費といった日頃の研究とは無縁の作業と格闘している。結局この日は、夕食後も会議室を午後10時ぐらいまでは開けておこうと思った事務局の予想に反し、半分のチームが徹夜の作業となってしまった。この間浅田氏を含め、私たちスタッフも午前4時ごろまで、彼らの質問に応えながら作業を見守った。

最終日は、いよいよ事業計画の最終発表の時である。どのチームも徹夜の作業でやや疲れを感じるものの、本当に2日間でこの事業計画書を仕上げたのか疑いたくなるほどのすばらしい出来上がりである。もともと仮想のテーマであるので、どのように現実的なレベルまで落としこめるか未知数であったが、同じテーマであっても6チームがすべて違った製品とビジネスモデルを展開し、参加者の創造性に本当に驚いてしまった。

最後に最優秀チームと個人賞を決める際にも、どのチームもみな優秀で審査員の採点を大いに悩ませるほどであった。

今回、終了後フォローアップも兼ねて何人かの参加者にインタビューをさせていただいたが、多くの方から参加してよかった。次回は周りの後輩に是非とも推薦しますとのうれしいコメントを頂くことができ、経済産業省

からも引き続き本年度の予算の手当てを頂くことができた。

インターカレッジ・バイオリダーズ2009

本年度は、前回と同じく東京晴海の晴海グランドホテルにて、2009年7月27日（月）夕方から30日（木）午後までと前回よりは時間を少し長めにして実施することが決定した。募集人数は、前回同様で30名であるが、日本語での議論が可能な留学生の参加も期待している。また、全体を通して世界に挑戦するバイオリダーをイメージして、今や抗体医薬で多くの製薬企業が技術導入を行っている「ポテリジェン技術」をベースに協和発酵（現、協和発酵キリン）が米国に設立したBioWaの設立者で初代CEOである花井常務執行役員にバイオベンチャーのケース報告をお願いしている。さらには、米国特許事務所の特許弁護士にも来日を依頼している。テーマはその時でないと公開できないが、今回も参加者の想像力をかきたてる設定を準備する予定である。

昨年、本誌にノバルティスバイオキャンプを紹介した際に、若い研究者の方々がキャリアパスを考える時に、「夢・挑戦・喜び」を考えてみてはどうかと提案した。それは日頃より、自分の理想の姿を夢みて、ひたすら挑戦し、その挑戦そのものを喜びと感じて生きていくことが大切なのではないかと感じているからである。また、ノバルティスバイオキャンプに参加している若い人たちも前回インターカレッジ・バイオリダーズに参加してくれた若い人たちも皆自分の未来に夢を持ち、その実現のために挑戦することに喜びを感じていたからである。

わずか数日のグループ演習ではあるが、参加者が得た財産は一生ものである。また、春の学会の期間中に北海道からの参加者と九州の参加者が、福岡で交流を深めましたとのメールを受けると、事務局としてこの経験をより多くの大学院生に味わってもらいたいと思う次第である。

その意味で、今回のインターカレッジ・バイオリダーズ2009には是非とも多くの若い大学院生に参加してもらいたいと思っている。そして、われわれスタッフと共に脳内グルコースを使い切って頭の中が真っ白になるま



第1回インターカレッジ・バイオリダーズにて

で議論しようではないか。

来たれ明日のバイオリダーズよ！

詳しくは下記を参照あれ。
インターカレッジ・バイオリダーズ事務局：
<http://www.jba.or.jp/top/09info/09bioleaders.html>
E-mail: info@bio-leaders.net
Tel: 042-732-2207